



# UNIC Tokyo Dateline UN

May 2002 Vol.31

国際連合広報センター

## 国際山岳年 記念切手

日本人写真家の作品が  
国連切手になりました



国連は5月24日、“International Year of Mountains”と題した切手を発行しました。この切手は2002年が「国際山岳年」であることを記念して作られたもので、日本人写真家・白川義員氏の写真12点が採用されています。

使用される写真は白川氏が1997年から2000年にかけて撮影した「世界百名山」の写真から選ばれたもので、日本のシンボルである富士山をはじめ、キリマンジャロ（タンザニア）、ヴァイスホルン（スイス）、サガルマタ（=エベレスト、ネパール）など世界有数の山々がその勇壮な美しさを競い合っています。

国連は、国あるいは政府以外で郵便切手の発行を許可されている世界で唯一の機関です。米国、スイスおよびオーストリアの郵政当局との取り決めにより、国連郵政部は米ドル、スイス・フランおよびユーロの3つの通貨建てで切手を発行しています。コレクターズ・アイテムとして人気の高い国連切手ですが、郵便目的ではニューヨーク、ジュネーブおよびウィーンの国連事務局にある国連郵便局からの投函にのみ使用できます。

作品が採用された白川氏は、これまでに芸術選奨文部大臣賞や全米写真協会最高写真家賞（ASMP）など数々の賞を受賞、『世界の文化地理』、『アメリカ美術』、『世界文化シリーズ』などの特写を担当して137カ国を撮影取材し、世界的に有名な山岳写真家として知られています。

日本国内での国連切手の購入は、財団法人郵便文化振興協会（Tel:03-3649-3591）、または株式会社日本郵趣エージェンシー（Tel:03-5951-3433）でお求めください。

国際山岳年記念切手  
ウェブサイト

[www.un.org/Depts/UNPA/  
aboutissues/mount.html](http://www.un.org/Depts/UNPA/aboutissues/mount.html)

### INSIDE

- 「グローバル・コンパクト」説明会報告 2-3
- 「グローバル・コンパクト」の  
ここが知りたい 4
- 東ティモール独立に寄せる  
アナン国連事務総長メッセージ 5
- 国連子ども特別総会・開会の辞 6-7

<http://www.unic.or.jp/>

# より良き地球市民へ

## 国連広報センター、グローバル・コンパクト説明会を開催

グローバル化時代の新しい企業のあり方を提唱する、国際連合の「グローバル・コンパクト」の説明会が5月21日に東京・大手町の経団連会館で開かれました。「グローバル・コンパクト」は、世界の有力企業に、国際的に認められている人権、労働、環境の9つの原則を遵守していただき、より良き地球市民を目指していただくというプログラムで、1999年1月、スイスのダボスで開催された世界経済フォーラムでアナン事務総長が呼びかけたものです。

このプログラムは世界各国で大きな反響を呼び、すでに40カ国以上で500社余りの企業が参加しています。日本では、キッコーマン株式会社(2001年1月参加)とリコー株式会社(2002年5月参加)がメンバーになっていますが、更に多くの日本企業に入っていただくため、東京の国連広報センターが、経団連傘下の社団法人・海外事業関連協議会のご協力を得て説明会を催したものです。

各企業にとっては多忙な時期だったにもかかわらず、73社から100人余の方々に参加され、会場は熱気に包まれました。説明会では、まず当センターの高島肇久所長が「グローバル・コンパクトの『コンパクト』は化粧品や自動車ではなく、『口約束』と『契約』との間ぐらいの緩やかな

状態を指す言葉です。国連がなぜ今このようなプログラムを始めたのか、担当者から直接お聞きください」と挨拶しました。



ゼフリン・ディアブレ国連開発計画 (UNDP) 副総裁

続いて東ティモールの独立記念式典から駆けつけたゼフリン・ディアブレ国連開発計画 (UNDP) 副総裁が次のように述べました。「グローバル・コンパクトは、各企業が人権、労働、環境の諸原則を守ることによって、グローバル市場をより人

間的なものにし、グローバル化がもたらす機会と恩恵を地球上の全ての人々が等しく手に入れられるようにしようというものです。参加企業は企業活動の様々な分野でグローバル・コンパクトの精神を実行に移すことが求められますが、それと同時に、貧困、社会不安、環境破壊といった社会的な問題に対して自分たちは何ができるかを考え、実践していただくことが期待されています。つまりグローバル・コンパクトは、各企業が『責任ある企業市民』へと変貌し、社会的責任を果たしたり、社会的投資を行ったりする上でより優れた、効果的な行動をとれるようにする重要なツールとなるものです。言い換え

ば、グローバル・コンパクトへの参加は重要な企業戦略そのものであり、他社への優位性確保の道なのです」。

一方、日本から最初にグローバル・コンパクトに参加したキッコーマン株式会社の茂木友三郎社長は「他にも沢山の日本企業がいるものと



茂木友三郎キッコーマン社長

思っただけで参加したところ、第一号だったのでビックリしました。わが社は『地球社会にとって存在意義のある会社に』を経営方針としていますが、特に地球環境との共生を最重要課題としており、グローバル・コンパクトへの報告もこの点を中心に行っています」と自らの体験を報告されました。



フレデリック・ドゥビー グローバル・コンパクト事務局次席

ニューヨークの国連本部グローバル・コンパクト事務局から参加したフレデリック・ドゥビー次席は、グローバル・コンパクトに参加した各国の企業が9原則を守り、その活動内容を国連に報告するという約束を果たすだけでなく、様々な形で貧困、疫病の撲滅や持続可能な開発の面で積極的な貢献をして



100名を超える参加者を得て、グローバル・コンパクト説明会場は熱気に包まれた（2002年5月21日、東京・大手町の経団連会館にて）

いる実例をいくつか紹介しました。その1つに、スウェーデンに本社を置く飲料用容器メーカーが中国で行っている合弁事業は、契約農家に無料で乳牛を提供するかわりに決められた量の牛乳を生産してもらい、これを保存用の容器に入れて地域の住民に安く売ることによって、住民の栄養状態を改善して病気を予防し、農家には1頭あたり日本円で年5万円程度の収入を保証して生活水準を上げるという一石何鳥もの効果を

上げています。

国際労働機関（ILO）から参加したハンス・ホフメイヤー雇用総局主任は、グローバル・コンパクトの労働関係の原則をより広く理解していただくため、ILOは企業の経営者や管理者のための解説書を作成中だと説明し、日経連がグローバル・コンパクトをアジア各国に広めて行く上でILOを支援していることに謝意を表明しました。



ハンス・ホフメイヤー国際労働機関（ILO）雇用総局主任



高巖 麗澤大学教授

とを意味しますが、自分自身をコントロールする仕組みがなければ暴走を防ぐことはできません。グローバル・コンパクトは企業が社会的責任を果たすことを担保するものであり、グローバル化時代の新たな競争力を生む道です」と述べてグローバル・コンパクト参加の意義を強調されました。

最後に発言された株式会社・資生堂の福原義春名誉会長は21世紀の企業のあり方について次のような持論を展開されました。「企業が社会的資源や空間など人類の共有財産（コモンズ）を利用しながら活動する限り、これによって得た利益は、投資家に還元するだけでなく社会全

体に還元すべきです。企業が、工場進出した途上国の社会全体のレベルアップを図るなど、地球全体を見て行動することが信頼を得る道であり、今やこうしたことが急速に必要となってきました。これこそが新しいビジネスのあり方です」。

説明会の後、国連広報センターには出席された各企業からグローバル・コンパクトへの参加方法などについての問い合わせが相次いでおり、関心の高さを物語っています。この説明会の詳しい内容は、近く国連広報センターのホームページでご紹介する予定です。

説明会の後、国連広報センターには出席された各企業からグローバル・コンパクトへの参加方法などについての問い合わせが相次いでおり、関心の高さを物語っています。この説明会の詳しい内容は、近く国連広報センターのホームページでご紹介する予定です。



福原義春 資生堂名誉会長



お問い合わせは

グローバル・コンパクト事務局ホームページ（国連本部）  
<http://www.unglobalcompact.org>

国連広報センター（東京）  
E-mail: [globalcompact@untokyo.jp](mailto:globalcompact@untokyo.jp)  
までどうぞ。

# What is グローバル・コンパクトのここが知りたい Global Compact?



世界共通の理念と市場の力を結びつける道を探りましょう。民間企業のもつ創造力を結集し、弱い立場にある人々の願いや未来世代の必要に応じて行こうではありませんか。

— コフィー・アナン国連事務総長

「グローバル・コンパクト」は、各企業に対して、それぞれの影響力の及ぶ範囲内で、人権、労働基準、環境に関して、国際的に認められた規範を支持し、実践するよう要請しています。その狙いは、各企業がそれぞれの事業を遂行する中で、これらの規範を遵守し、実践することを通じて、世界に積極的な変化をもたらすことです。その原則は右の通りです。

では「グローバル・コンパクト」に参加することによって、ビジネス・リーダーの方々は、どのような機会を得ることが可能になるのでしょうか。以下はその一例です。

- 社会の一員としての責任ある行動を通じて、リーダーとしての地位を示すことができる。
- 同じ志をもつ企業や組織との間で、経験や教訓を共有する機会が得られる。
- 他の企業、国際組織、政府機関、労働界、NGO と関係を築くことができる。
- 国際労働機関 (ILO)、人権高等弁

## グローバル・コンパクトの9原則

### 人権

- 1) 国際的に宣言されている人権の保護を支持し尊重する。
- 2) 人権侵害に荷担しない。

### 労働基準

- 3) 組合結成の自由と団体交渉権を実効あるものにする。
- 4) あらゆる種類の強制労働を排除する。
- 5) 児童労働を実効的に廃止する。
- 6) 雇用と職業に関する差別を排除する。

### 環境

- 7) 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
- 8) 環境に対していっそうの責任を担うためのイニシアチブをとる。
- 9) 環境を守るための技術の開発と普及を促進する。

務官事務所 (OHCHR)、国連環境計画 (UNEP)、国連開発計画 (UNDP) など、国連の諸機関とのつながりができる。

- 企業のビジョンに社会的な側面を加えるとともに、責任ある経営の方針と業務を実行することによって、事業のチャンスを最大限に生かすことが可能になる。
- 「紛争地域における企業の役割」や「持続可能な開発」など世界が直面している重大な問題についての意見交換の場に参加する機会が得られる。

「グローバル・コンパクト」は、規制の手段でも、法的に拘束力のある行動規範でもありません。また各企業の経営方針や実践を管理するためのフォーラムでもありません。「グローバル・コンパクト」は、各企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することを通じて、社会の良き一員として行動するよう促すと共に、持続可能な成長を実現して行くための世界的な枠組み作りを寄与するという「自発的なイニシアチブ」なのです。



## 国連はつねに東ティモールとともに

国連の暫定統治下で国づくりを進めてきた東ティモールが5月20日午前0時、21世紀に誕生する初めての国家として正式に独立しました。アナン事務総長は東ティモールの独立に寄せて以下のメッセージを発表しました。

(本文は5月15日の朝日新聞に掲載された寄稿文を転載したものです)

5月19日の真夜中を期して、世界は東ティモールを国家として国際社会に迎え入れる。それは東ティモールにとって、また国連にとって歴史的な瞬間となるだろう。

だれしも自らが選んだ政府の下で自由な人間として生きることを夢見ている。誇り高く、しなやかな人々がその夢を実現する。その夜、東ティモールの人々が抱く誇らしさは、国際社会のものである。国連のものでもある。

独立達成の栄誉はまず、自らの国を立て直すために気高い勇気と忍耐力を示した東ティモールの人々に与えられるべきである。彼らはあらゆる試練に立ち向かい、民主主義に対する信念を身をもって示した。

国際社会もまた、独立への寄与を誇りにしている。国連安保理決議を受けて、多国籍軍が速やかに秩序を回復した。99年10月には国連東ティモール暫定行政機構 (UNTAET) が設立され、東ティモールの人々と共に、破壊された国を再建し、独立に備える仕事に取り組んできた。

それ以来、平和が確保され、行政機構と法制度が整えられた。子供たちは学校に通い、建物が再建され、医療制度も整備された。

東ティモールの制憲議会選挙と大

統領選挙の投票率は、圧倒的な高さだった。ここ数カ月の間に多くの難民が帰還したことにはとりわけ勇気づけられた。

国連の平和維持部隊と文民警察が法秩序を回復し、発足したばかりの

国軍と警察が未来を安全なものにするための基礎づくりをしている。

治安をしっかりとしたものにするためには、東ティモールは正義と和解という二つの要求のバ

ランスを取る必要がある。この分野でこそ国際社会は東ティモールの人々の努力、特に「(難民の) 帰還受け入れ・真実和解委員会」の活動を支援し続けなければならない。

最も重要なことは、国民を代表する効率的で正統な政府の基礎づくりを国連が手助けしたことだろう。

最近では、政府のすべての部門で国連職員よりも東ティモール人に権限が与えられている。5月20日に東ティモールが独立国家になった時には、経験を積んだ行政府と議会がしっかり機能しているだろう。

とはいえ、すべてはまだ緒に就いたばかりだ。東ティモール政府はこれから何年も、膨大な仕事に取り組まなければならない。

世界はこの重大な時期に、東ティ

モールを見捨ててはならない。独立した最初の数年が安定と進歩の年月となるよう、あらゆる手助けをすべきである。東ティモールの人々は、それに値する人々なのだから。

国連の平和維持活動要員は引き続き現地にとどまり、新国家の安定と存立にとって重要な行政、法秩序、安全保障の3分野で支援を続ける。支援は2年以内に徐々に縮小されるだろう。

近隣諸国と良好な関係を築くことは、東ティモールの将来の安定にとって不可欠である。インドネシアとも緊密に協力し、国境線の画定や西ティモールに残る難民の処遇、99年の騒乱の際に重大な罪を犯した容疑者の訴追に関して、適切な時期に合意するよう努めなければならない。

私は国連事務総長として、東ティモール独立の闘いで、とりわけその最後の段階で国連が果たした役割を誇りに思う。独立は終わりではなく、新たな始まりである。

国連は、つねに独立国家東ティモールと共にあり、しかるべき役割を果たし続けるだろう。



東ティモール初代大統領シャナナ・グスマン氏(中央右)と共に独立記念式典にのぞむアナン事務総長

### 東ティモール独立記念 国連切手



←伝統的家屋に見られる飾り付き木製扉。シンボルであるワニなどが彫られている



←悪霊から身を守る儀式用の木製の仮面



鹿の角と木を彫って作った鞣。男性の頭がデザインされている→

詳しくは<http://www.un.org/Depts/UNPA/aboutissues/timor.html>をご覧ください

## コフィー・アナン国連事務総長

### 国連子ども特別総会における開会の辞

ニューヨーク、2002年5月8日

*"We know from experience that for every dollar invested in the development of a child, there is a seven dollar return for all society."*

この会議は、ただ子どもについて話し合うための集まりではありません。人類の未来を話し合うための会議です。私たちが今ここにこうして顔をそろえたのは、子どもの幸せな生活ほど、緊急性が高く、普遍的で、人々を一体化させるテーマはほかがないからです。これ以上重要な問題はないのです。

私たちは皆 — 国連や政府の職員も、市民社会の人々も、そして当然ながら本日この場に出席している子どもたちも — この総会が真に特別なものでなければならないことに疑いを抱いていません。少なくとも1つの点で、この総会は特別です。子ども自身がこのような場で初めて発言するのです。ここにご出席のすべての大人は、子どもたちの言葉に注意深く耳を傾けてください。子どもたちが幸せに暮らせる世界を築くには、子どもたちと力を合わせなければなりません。ですから、私はここで、世界中の子どもたちに向けて語りたくと思います。

私は皆さんに伝えたいのです。皆さんがどこに住んでようと、

皆さんには、貧困や飢餓を経験することなく成長する権利があることを。

女の子であれ男の子であれ、質の高



子ども特別総会に先立って行われた「子どもフォーラム」に出席したアナン国連事務総長

い教育を受ける権利があることを。

HIV／エイズを含め、感染症から保護される権利があることを。

安全な飲み水を手に入れることができる、きれいで健全な地球で成長する権利があることを。

戦争、虐待、搾取におびえることなく、安全な暮らしをする権利があることを。

こうした権利は明白です。しかしながら、残念なことに私たち大人は、その多くを皆さんに保証できません。皆さんの3人に1人は、5才になる前に栄養失調に苦しんでいます。4人に1人はいかなる病気の予防接種も受けていません。ほとんど5人に1人は学校に通っていません。学校に通えない子どもたちのうち、5人に4人は5年生まで進むことができません。決して子どもが目にするべきではない暴力を目の当

りにさせられる子どもも大勢います。さらに、すべての子どもたちが環境悪化の脅威にさらされながら暮らしています。

私たち大人は、こうした数々の失敗を正していかなければなりません。そして、私たちはそれを約束します。私がここに述べた子どもの権利は、「ミレニアム宣言」の中でなされた約束の一部です。つまり、世界の指導者たちすべてが合意した約束なのです。世界の指導者たちは、2015年までに、1日1ドル未満で暮らす人々の数を半分に減らすと約束しました。同じく2015年までに、小学生の年齢に当たる男女すべての子どもたちが学校で学べるようにすると約束しました。エイズの蔓延を食い止めると約束し、戦争の防止と地球資源の保護に取り組むと約束しました。

この総会は、次世代の子どもたちに対してこうした約束がなされたことを改めて思い起こすためのものです。

つまり、2000年に生まれた子どもは、15才になったときには社会が大きく変わっていることを期待する権利があるということです。すべての子どもが、一生の間に、よりよい世界の実現を自分の目で見るといえる権利があるということです。よりよい社会は、皆さんのような世界の子どもたちに投資することによってのみ、築くこと

## UN Special Session on Children



①特別総会の初日、子ども代表として演説するボリビアのガブリエラ・アリエッタさん（13歳）②国連児童基金（UNICEF）のキャロル・ペラミー事務局長【右端】③リベリアのウィルモット君（16歳）は安全保障理事会に出席し、戦争が子どもに与える影響について発言した④若きジャーナリストも大活躍

国連子ども特別総会が2002年5月8日から10日までニューヨークの国連本部で開催され、60カ国以上の首脳、約180カ国の政府高官など総勢6,000人の参加者が集まりました。

特別総会に先立つ5月5日から7日には、子どもたちによるサイドイベント「子どもフォーラム」が開かれ、世界138カ国から362人の子ども代表が参加。子どもたちによる、子どもたちだけの討議が行われました。

特別総会は「私たちにふさわしい世界（A World Fit for Us）」と題した、子どもたちの演説で開幕しました。この総会の目的は1990年の「子どものための世界サミット」での約束の達成度と課題を検証し、今後の行動計画を立てることで、1990年と比較して次のような変化が見られました。

\*「教育」「健康」の分野に加えて「虐待・搾取・暴力」と「HIV/エイズ」が新たな重点課題として位置づけられた。

\*思春期の子ども（およそ12～18歳まで）が「子ども」として明確に位置づけられた。

\*子どもの参加がより重視された。

3日間の熱心な討議の末、特別総会は「子どもにふさわしい世界」という名前の最終文書を採択して閉幕しました。（日本ユニセフ協会HPより）

子どもたちによる演説や採択文書の全文など、特別総会の日本語による詳しい内容は <http://www.unicef.or.jp> で読むことができます。

ができるのです。

そんなことは不可能だという人もいます。けれども、過去を振り返って、わずか15年の間にどんなに多くのことが成し遂げられたか考えてみてください。

1954年生まれの子どもが命を授かったのは、まだ宇宙に衛星すら打ち上げられたことがない時代でした。ところが、その子どもが15才になったとき、人類は月に着陸しました。

1964年生まれの子どもが命を授かったのは、何千万もの人々が天然痘にかかる世界でした。ところが、その子どもが15才になったとき、天然痘は公式に撲滅が宣言されていました。

1976年生まれの子どもが命を授かったのは、南アフリカで非道なアパルトヘイト政策が過酷に行われている時代でした。ところが、その子どもが15才になったときには、本日ここにいらっしやるネルソン・マンデラ氏が解放され、アパルトヘイト政

策が終わりを告げました。それから10年を経た今日、この特別総会にマディバ（マンデラ氏の愛称）が出席し、子どもたちによりよい未来を与えるために今なお誰よりも熱心に活動していることを嬉しく思います。

1982年生まれの子どもが命を授かったのは、アンゴラやアフガニスタンなど世界各地に埋められて何千人もの子どもたちの生命を奪い重傷を負わせている地雷を制限するために、何の努力もなされていない世界でした。ところが、その子どもが15才になったとき、こうしたいまわしい兵器の使用を禁止する条約が締結されました。

これは何を意味しているのでしょうか。どうしてこのようなことが実現されたのでしょうか。そこにはどんな共通点があるのでしょうか。こうした偉業は、人々が、自ら課した目標に到達できるように頭と心を使って懸命に取り組み、協力し合ったがゆえに達成されたのです。

こうしたことはすべて、1人の人間の子どもの時代という時間の中で達成されたのですから、世界のすべての国が同意した約束を私たちが同じく15年で達成するのは不可能ではないはずです。特に、私たちは、経験によって、子ども1人の育成に1ドル投資すれば社会全体で7ドルの見返りがあるということを知っているのですから。

本日ここにお集まりの大人の皆さんに申し上げます。自分たちの失敗を子どもたちに償わせるのはもうやめにしましょう。失望した子どもの目を見て恥ずかしく思ったことがない大人がここにいるのでしょうか。この会場にいる子どもたちは、私たちの言葉の証人です。この子どもたち、そしてその仲間である世界中の子どもたちは、私たちが言葉を行動に移すと期待する権利があります。もう一度繰り返します。子どもたちは、私たち大人が言葉を行動に移し、子どもが幸せに暮らせる世界を築くことを期待しているのです。

東京・渋谷の UN ハウス（国連大学ビル）の UN ギャラリーでは、2002年6月20日（木）から7月19日（金）まで「国連『難民の日』展」を開催します。

国連は毎年6月20日を国連「難民の日（World Refugee Day）」と定めています。この日はもともとOAU（アフリカ統一機構）難民条約の発効を記念する「アフリカ難民の日（Africa Refugee Day）」でしたが、難民の保護と現状に対する世界的な関心を高め、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）や NGO による活動に対して理解と支援を深める日にしようと、2000年12月に、国連総会において「難民の日」と改められました。

現在、世界には2,100万人を超える難民・避難民がおり、そのうちの8割近くを女性と子どもたちが占めています。UNHCR は「国連『難民の日』展」開催にあたり、今年の難民の日のテーマである「難民女性」の写真を含め、パネルやポスターなどさまざまな展示を行います。

UN ギャラリーの展示を通して、世界各地で数多くの難民が抱えている問題を見つめ、同じ時代を生きる一人として私たちに何ができるのかを考えるきっかけにしていただけることを願っています。



アフガニスタン—過酷な統治を生き延びて © S. SALGADO



パキスタンから到着したアフガン帰還民 [UNHCR/R. HAKOZAKI]

期間：2002年6月20日（木）～7月19日（金）

土日、祝祭日および国連の休日は休館

時間：午前10時～午後5時30分

場所：UNギャラリー（UNハウス1、2階）



### 発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス 8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: [unic@untokyo.jp](mailto:unic@untokyo.jp)